

令和5年度 町政地区懇談会③(対象地区 長野)

- 日 時 令和5年6月14日(水) 19時30分～20時46分
- 会 場 長野公民館
- 懇談会参加者 8名

■開会～説明

- (1)町長挨拶
- (2)出席者紹介(副町長)
- (3)予算概要説明(総務課長)
- (4)重点施策説明(総務課長・企画調整課長)

■意見交換

Q1

長野にとって、防災センターは非常に大きなお話だと思います。また、ありがたいお話だと思っております。ただ私のアンテナが低いのか、現時点でどんな形で建てられるのかっていうのは、全然。先ほど鉄骨1階建てという話ございましたけど、その辺がちょっとよくわからないということです。それでですね、1番重要なと私が思うのは、電気、水道、ガスとか色々あるわけですけども、電気についてです。お聞きしたいのが電気設備において、最近になってですね、コンピューターが非常に盛んになったという中で、その施設内でのwi-fiの利用、または多量の携帯を充電する設備、この2つはあるでしょうか。

A(町長)

最初は、基本的なお話をさせていただきたい。これは元々長野地区からも要望いただいております。特に、今年度から消防団の統合という問題がございます。それから、長野さんからは、集荷施設の問題も前々からあります。そういう中で、昨年度からですね、自主設計とかで色々協議をしてきまして、長野区さんとも相談をしながら詰めてきた状況もがございます。そういう中で、基本的な設計ができたものですから、今年度、予算を取って実施をしたいなということがございます。また、区の方の負担金もあるものですから、実際、公民館等については区民の皆さんのお金を一部入れてもらわないとできないものですから、それも含めて、また長野区さんの方で説明があると思います。必要があれば、町の方からも、説明することができると思いますので、それについては今後の工事の始まる前に、ぜひともその辺の機会を設けてもらえば、必要があれば町からも説明できると思います。それから今の範囲で、課長の方から説明したい。

(企画調整課長)

今日、担当が来てないものですから、大変申し訳ないんですけどお願いします。防災拠点施設については、基本設計が終わって発注をかけているというような状況です。それで、建物の構造につきましては、先ほど総務課長が言いました通り、平屋建ての鉄骨造ということで、延床面積が394.18㎡でございます。内訳につきましては、防災拠点施設部分が291.5㎡、消防の増置場部分、詰所の部分ですけど、102.68㎡ということでございます。防災拠点部分につきましては、会議室が3室、ピロティとエントランス、多機能トイレ等を含めた施設になります。詰所につきましては、消防車両が入る車庫と倉庫、消防分団の会議室等を含んでおります。

先ほど言った、Wi-fi等設置につきましては、聞いてはないんですが、そういう要望があれば、地区の方を通して要望いただければ、まだ設計で発注した段階ですので、細かい設備の設置等は検討できるのかなと思いますので、その辺は地区の役員さんと通して、要望いただければなという風に思っております。以上です。

(町民)

wi-fiはあれだけど、携帯の充電、例えば100とか。そのものは本当、実際必要になってくると思うんですよ。それで、携帯がこんなに盛んになってしまったのっていうのは、ここ10年ぐらいですよ。だから、その前の施設とではおそらくあり得ない施設なんですよ。だけど、今になったら、携帯も持ってなかったら、何もできないじゃないですか。要は、昔だったら公衆電話で安否を確認するとかっていう話だったけど、今は携帯でみんなやるわけですよ。だから、その必然性っていうのは非常に高いんじゃないかなって思っていたんです。それが今、設備の設計として入っているかどうかをお聞きしたかったんです。もし要望がないとするならば、私は要望としてあげます。

(企画調整課長)

すいません、携帯電話の充電設備というと、電気が来ればいいっていう考え方ですかね。

(町民)

私、分からないんですけど、100個携帯電話を設置した時に、全て同時になるわけじゃないですか。何もなければ。要は、三股ソケットを何十個置いて、それで携帯を繋げばいいのか。そんなことしたら電氣的に危ないのか。そういうところを検証した上で設備を設けてもらいたい。

(企画調整課長)

分かりました。そういう要望があったということで、防災課の方には話はしておきたい

と思います。

Q2

前に言っていた役場に行く道(浜峰線)の進展ありますか。

A(町長)

今お話があったのは浜峰線といって、上峰と言いますか、コメリさんのところから駅前を通過して浜までの道を浜峰線と言っております。その途中、観光交流館の先から役場の区間の630mが、都市計画決定をされたんですけど、まだこの実施に至ってないということです。実はそれが、地権者の協力がどうしても必要だということ、なかなか理解が得られなくて進んでなかったわけですけど、今年度、まず測量することによって、どういう道路の線形を取って、どの土地にかかるかってはつきりわかるものですから、その事業を始めようってことで今年度予算化をいたしました。ただそれも、地権者の方が協力してくれないとできない話ですけど、その道路線形をはつきりした上で、例えば個人の土地がどの程度使われるのか、確かめないとなかなか次へ進めないものですから、今年度、この何十年もかかって進めなかったわけですけど、測量からまず始めようってことで、町の方で測量費を計上させていただきました。そういう中で、今後進めていきたいなと思っております。以上です。

Q3

伊豆縦貫道で河津から下田の方に、利用している人が短縮されたということで、だいぶ向こうに人が流れると思うんですよ。河津町を通過して海岸線の道を行った人が結構いるんですけども、どのくらい向こうに流れていったかとか、河津町にどのくらい人が来たかというのは把握していますか。

A(町長)

この件につきましては、河津七滝インターから河津逆川インター間の約3キロ、河津-下田間の途中3キロが、部分的に開通したという状況でございます。私どもとしては、天城峠からやってほしいんですけど、これまでの経緯から河津と下田までを先にやろうってことで始まっているようです。国土交通省の沼津河川国道事務所が、5月3日に交通量調査をしたのが新聞に出ておりました。それで言いますと、約4割が下田に道路を使って、流れるのではないかという話です。それから、国道135号から逆に国道414号へ向かう部分が3%増えたと言われております。

これは大変難しい問題でして、私どもはこれまで全線開通ということを中心に要望してき

ているわけですが、全体としては当然全線開通してほしいんですけど、部分的な開通のためにですね、河津町へ降りる人はもっと少なくなってきたなということがあります。それが現実として大きな影響を受けているというのは認識しております。ただ今後、天城峠全線の開通に向けて、このままでは、放っておけないものですから、いかにして河津町に降りてもらおう仕組みを作らなきゃダメだなと思っています。

特に、私がまず思っていることが2点ございまして、1つは、河津七滝インター、河津逆川インター含めてですけど、どこで降りても周遊できるような仕組みがうまくできないのかな、それによって河津もそんなに含まれるんじゃないかなということで、県や国のアクセス道路、さっき言った浜峰線も含めて、協力してほしいなということは言っております。それから、河津町としてなんですけど、河津七滝インター、河津逆川インターで降りてもらうには、目的となるようなものがどうしてもなきゃダメだということ、それには近隣の市町と一緒にいろんな活動やっていかなきゃダメだなと。特に東伊豆町さんですとか下田市の白浜さんと、そういう形の中でうまく連携をしながら、今後に向けてそういう運動やっていきたいなと思っています。実は今度の連携協定の中で、レップジヤパンさんと連携協定を結んでおります。これは、イズーさんとカワズーさんを運営している会社です。民間会社ですけど、それを目的として十分降りる部分としては大変重要な役割を果たすものですから、これからは民間と行政が一緒になって、降りる仕組みを作っていかなきゃならないのかなと思っています。ただ、何よりも私たちと思うのは、天城峠区間を早く通すという、そのことは20kmが大きなあの鍵になると思います。これまでを見てみますと、計画が実行段階に移っても工期が遅れる場合があります。実は河津-下田間の1期と2期、1期は下田方面で、2期が箕作から七滝方面です。現実的には2期の方が早かったというのは、いろんな計画が進んだってこともありますんで、月ヶ瀬からが決まりましたけど、場合によってはその次の浄蓮の滝付近から、これからの運動次第で、早くできる可能性があるかなと思っています。ただ国の説明ですと、伊豆縦貫道は大変、お金のかかる場所だそうです。大体、1kmを作るのに100億円かかるそうです。それで、今まで河津-下田区間の年間の予算は、大体100億円ぐらいです。例えば20キロだとかどのくらいかかるかってわかるとは思いますけど、現実的に天城峠区間は約3000億から4000億円かかると言われております。それが100億円出すと30年、40年かかっちゃうので、そういう面ではこれから皆さんと一緒に、予算要望だとか行事のことも含めて協力していくことによって回収できるかなと思いますので、その辺については、町民の皆さんや国会議員の皆さんとかいろんな力を借りて、なるべく早く天城峠区間を通すことは河津町にとって大事だと思いますので、そういう状況でございます。

先ほどお尋ねありました、一部開通については約4割の方が移行しているという、統計上の数字が出ております。以上でございます。

Q4

何年か前に、伊豆縦貫道の地図みたいなものを、担当の方にいただいた覚えがあります。そこではインターチェンジの名前が、「河津インターチェンジ」になっていたんです。それが今、「河津七滝インターチェンジ」になっていまして、なんでこんな経緯になってしまったのか。河津町にとって「河津七滝インターチェンジ」という表現がいいのか、「河津インターチェンジ」がいいのか。名前が変わった経緯について教えてくださいませんか。

A(町長)

変わったってということではなくて、国の方が仮につけていた名前だったことで、最終的には国が決定するわけですけど、その決定までの過程の中で、町にも要望を聞く機会がありましたので、町の要望の内容として、河津七滝インターチェンジ、河津逆川インターチェンジで、トンネルについては河津桜トンネルってことで要望した件でございます。この基礎となっているのが、商工会の町民アンケートが基礎になっております。その中で要望が多かったものを、町としてお願いをしました。いろいろな意見もありましたけど、河津という名前つけて、「七滝」という正式な読み方が、観光的な要素としても使えるのかなということで、アンケートの内容も加味して、国の方で最近決定をしていただきました。最終的に町が決めたわけではありませんけど、なるべく河津町にふさわしいような名前ということで、商工会のアンケートを基に、国の方に要望した経緯がございます。

これまでは仮の名前だったものですから、国の方のルールもあるみたいで、国全体のいろんな名前の付け方があるようでございます。それに合わないものもあると話を聞いておりますので、その中で河津七滝インターチェンジとか、河津逆川インターチェンジの名前を決定した。トンネルについては河津桜トンネルっていう形ですけど、河津桜インターチェンジというのはダメだそうです。土地の名前等、決まったルールがあるようでして、河津桜インターチェンジは国の方でふさわしくないっていうか、ルールに合致しなかったということで、最終的には河津七滝インターチェンジと河津逆川インターチェンジとなりました。そういう面ではある程度、要望に沿った形で決定されたのかなと私自身は思っております。以上です。

Q5

小学校1年生になる子供がいて、今まで生活が精一杯で、こういった場に顔を出すこともなく来たんですが、非常に人口減少のことも気になりますし、次世代の子供たちの環境が非常に危機的な状態になっているという危機感もありまして、ここにもある大きな諸問題、やはり人口減少は一番早く取り組まなければならない問題だと感じているんですけども、どういう対策をしていくか、移住者を増やすのか、今住んでいる方が子供を増

やして環境を作るなど、いろんな方法があると思うんですけども、町としてあまり積極的に取り組んでいただいているような感じを、受けないという風に考えておまして、私は長野区に住んでいますけれども、子供がすぐ公園に歩いていける場所がない、遊具のある駐車場に止めて遊べるような近所の子供たちと集まって楽しく遊べるような場所がありません。今回、長野区に新しい防災施設ができますけど、そこにはそういった遊具があるスペースを作ったり、子供のために母親が子供を遊ぶようなスペースを作っていただいたり、そういった計画はないでしょうか。

A(町長)

まず基本的な私の考えについて述べさせてもらいたいと思います。河津だけの問題ではなく近隣、場合によっては全国の問題かもしれません。今の河津町の現状を見ますと、65歳以上が43.3%。ご存じのように河津町はお年寄りが多くて、一般的に言う自然減と言いますか、お年寄りが亡くなる率が高くて、子供が生まれる数が少ないという、自然減があるものです。もう一方では、社会増減と言いますか、転入・転出の中では転入が多いっていう状況でもありませんので、私の考え方の当面の間は、ある程度、減っていきたくらうなっていうのは、現実問題としてあると思います。

それをどこで緩やかにするかというのは大きな問題なのかなと思っております。いろんな取り組みをしているわけですけど、基本軸としては特にお年寄りが多いものですから、特に社会保障の関係や地域を守る、そして持続的な発展するためには、どうしても支える世代と言いますか、その人たちが増えないとダメだろうなと思っております。働く世代あるいは子供を持っている方の世代が増えて、お年寄りでも守ることができるだろうな、そういうのがまず大事な。

ただそれも一遍にできるわけではありませんので、そのために当面の間は関係人口と言いますか、外から来る人たちに経済的な面を支えてもらったり、あるいは住んでもらうことが大事ということで進めております。特に関係人口を作りながら、観光の面での、人を増やすことが大事なのかなと思うんです。それで今、観光は数を呼ぶ時代じゃなくなってきているものですから、質を高めるとか滞在を長くするということが大事かと思えます。そういう意味で、国の観光庁の補助金も創設をされて、例えば宿の改修でも1億円限度の2分の1補助みたいな制度も作ってあったりして、昔みたいに県の補助金じゃなくて、直接観光庁の補助金を使うこともできるような形になっているものですから、そのような国の取り組みも取り入れながら、関係人口ですとか移住・定住の制度もそういう形で、基本的な考えを持った中でやっております。おかげ様で、河津町の人口は減っているんですけど、この周辺からすると減少がなだらかなと思ってます。ただそれでも減っていることは間違いないなと感じます。

それから子供の関係ですけど、念願の子育て支援センターもできて、多くの方利用さしてもらっていますが、確かに外で遊ぶというのはなかなかいい場所がなくて、浜の児童

公園もありますけど、少しずつそっちも力入れていかなきゃなど。それで今年、簡単なことですが、笹原公園の中の足湯の横に山があって、元々井戸が掘ってあって、その中に水中ポンプが設置してあって水を出してなかったんですけど、手直しをして水で遊べる部分も公園に作っていかうかなってことで、川の方もあるんですけど危険性もあるので、公園の中で少し子供たちが水遊びもできるようなことも、少しずつ進めております。実は長野区の防災センターについては、駐車場の部分がとても大きいものですから、特に子供の部分は計画してないと思いますけど、ただ街の中で車の移動もできるものですから、特に浜の公園や笹原公園を充実させた中で少しずつ手を加えながら、変えていかうかなと思いますので、特に雨の日は子育て支援センター・かわづっこひろばに来ていただくことがいいのかな。できればおじいさん、おばあさんとかお父さんにも協力していただいて、一緒にいても安心できるような場所が作ればいいなと思っております。

そんなことでご意見があって、思うような形ができない部分もありますけども、少しずつそのような考えをもとに町の施策をしているという状況でございます。ぜひともご利用をお願いしたいと思います。

Q6

国道沿いにファミリーマートがございます。ファミリーマートの東側というんですか、そこに道路が通っているんですけども、その道路は一方通行でしょうか。昔の人に聞くと、ちょっと様々です。困っているんです。

(Q6については町民が回答)